〈付記：新型コロナウイルス感染症の蔓延に関して　2〉

加藤 明

〈一変した生活〉

２０２０年に入って、突如として現れ、瞬く間に地球を席巻し、多くの感染者と死者を続出させている新型コロナウイルス。この一年余りで、世界の政治・経済・教育は激変し、個人の生活スタイルも一変してしまいました。常時マスクを離せない生活、常時他者との距離を意識しなければならない生活など、誰が想像できたでしょうか！永遠に続くと思われた生活様式が、ウイルスという目に見えない微小な存在によって、一瞬にして、いとも簡単に強制変更させられ、それまで当然と考えられてきた生活様式を、続行できなくなってしまったのであります。その結果、感染者はもとより、未感染者であっても、死への恐怖や生活破綻の脅威にさらされ、不快・不便・不自由な生活を、余儀なくされています。

それにしても、このように心配の尽きない、常時マスクを着けたり他者との距離を意識しなくてはならない生活の方を、自然・当然とは、誰も思わないはずであります。どう考えても、マスクなどいらない、感染のリスクなど考えずに誰とでも気軽に相対（あいたい）せる生活の方が、あたりまえと感じます。その自然なあたりまえの生活が出来なくなったという結果には、あたりまえではない不自然

な原因があったはずであります。私は前回の記事において、その一大原因は、大量の動物たちの隔離・虐待・殺害という不自然な行為であり、その蒔き続けてきた悪い種の結果を、現在刈り取らされているのだ、と申し上げました。

実は、そのような殺生食・搾取食に代表される動物虐待の生活が行き着く未来の状況を、予言していた神示があります。今回は、その神示に示された予言の箇所を中心に、人は本来どうあるべきか、なかんずく、人の食はどうあるべきかについて、あらためて注意を喚起したいと思います。

〈日月神示と岡本天明〉

神霊関係の方面に詳しい方なら既にご存知と思いますが、その神示とは、『**日月神示**』（別名『**ひふみ神示**』）と呼ばれるものであります。神霊・神典研究家であり、画家・神官でもあった岡本天明（１８９７－１９６３）が、日本の高級神霊の働きかけによって、１９４４年から約17年間にわたって、自動書記によって記述した文書であります。元々霊媒体質であった天明は、神霊研究家の浅野和三郎（１８７４－１９３７）が、大本教の信者として、大本教の新聞社「大正日日新聞」の社長をしていた当時、この新聞社に入社したこともあり、浅野が審神、天明が霊媒として、共に心霊現象に関わっていたこともありました。

天明も、高級霊界通信の霊媒の例に漏れず、植物食の人で、しかも極めて少食の人でありました。夫人だった三典氏は、自著『日月神示はなぜ岡本天明に降りたか』に、然もありなん、次のように記しています。「神示の出る前は、食事の量は殊に少なくなり、一日に餅一切れやリンゴ一個のことが続きました。それで大して痩せもせず畑仕事をする日もあり、平常と少しも変わらず、本人の気分は春風駘蕩でした」。日月神示は、内容も然ること

ながら、天明という霊媒の食事が、普段から極めて簡素で浄化されたものであった、という点からしても、傾聴に値するものである、と思われるのであります。

神示とか霊界通信と呼ばれるものの信憑性を測る際、絶対不可欠な条件として、先ず何よりも霊媒の飲食物に注目しなくてはなりません。霊媒が粗食・植物食・少食だからと言って、必ずしもその信憑性が確実に保証されるわけではありませんが、少なくとも、高級な霊界通信や神示が、酒に溺れた酔漢や肉好きの大食漢に降りることは、万に一もない、と言うことはできます。酒肉を好む、肉体的な欲望の強い、ヴァイブレーションの荒い人物では、高級神霊界の、繊細・精妙なヴァイブレーションには、絶対に感応し得ないからであります。そうした人物でも、霊媒体質であれば霊言・霊視ができたりしますが、深みや繊細さに欠けるので、高い界層と通じたものではない、と分かるものであります。一口に霊界と言っても、いろいろの界層があって、人は食を始めとする日常の身口意の三業によって、普段からそれ相応の界と通じているのであります。

霊界の高度な世界から教えが齎(もたら)される場合には、その通信を受ける地上の霊媒者は、指導霊の綿密な計画の下(もと)に、あらかじめ何年・何十年にも亘ってその受信に相応しい状態となるよう、肉体状態や生活環境が指導準備されるのであり、そうなれば当然、一般人とは異なった、一種独特の、峻厳とも言える、食傾向や生活習慣を表すようになります。その役目にある人、或いは、あった人かは、食を始めとする生活傾向に注目してみれば、自ずと判明するのであります。

〈神の意図する世界〉

その天明が筆記した『日月神示 空の巻 第13帖』に、次のような記述があります。「**人力屋、酒屋、料理屋、芸妓屋(げいこ)、娼妓(しょうぎ)屋、無く致すぞ、世つぶす基(もと)ざぞ、菓子、**